平成３１年度　全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果について

桶川市立桶川東小学校

はじめにお読みください。

＜調査の結果をご覧になる方へ＞

各小・中学校では、全国及び埼玉県学力・学習状況調査の結果を、一つの資料として児童生徒一人一人の学習状況と、学校全体の学習への取組状況等を把握しています。また、学力の経年変化等、学校全体で情報を共有するとともに、調査結果の分析を通して自校の取組の成果と課題を明らかにしています。さらに、その分析に基づき、課題解決のための「学力向上プラン」を点検し、児童生徒の学力向上に係る取組の改善を図っております。

今後、成果を上げたと考えられる取組を校内でも共有し、さらなる児童生徒一人一人の学力向上に努めてまいります。

また、調査の結果とその分析、学力向上に係る取組を、保護者及び地域の皆様にお知らせし、情報を共有することを通して、学校の状況をより深く知っていただき、家庭での学習にも生かしていただくことが、児童生徒の学力向上につながると考えます。

調査の結果をお知らせするにあたり、本結果をご覧になる方々には、以下の点にご留意くださいますようお願いいたします。

（１）各調査の目的等について、ご理解くださるようお願いいたします。

（２）平均正答率等の数値だけではなく、学校で分析した結果や学力向上プランをはじめとする学校の取組とあわせてご覧ください。

（３）本調査で測れるのは、①調査対象の教科等学力の特定の一部分であること、②学校における教育活動の一側面であることをご理解ください。

＜全国学力・学習状況調査の概要＞

※「平成３１年度　全国学力・学習状況調査に関する実施要領」（文部科学省）より抜粋

１　調査の目的

◇義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。

◇学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

◇以上のような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

２　調査対象

小学校第６学年、原則として全児童

３　調査実施日

平成３１年４月１８日（木）

４　調査の内容

<table>
<tr><td rowspan="2">教科に関する調査
（国語、算数）</td><td colspan="2">・小学校調査は，国語及び算数とする。
・出題範囲は，調査する学年の前学年までに含まれる指導事項を原則とし，出題内容は，それぞれの学年・教科に関し，以下のとおりとする。
①　身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や，実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
②　知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や，様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容
・調査問題では，上記①と②を一体的に問うこととする。出題形式については、国語及び算数においては，記述式の問題を一定割合で導入する。</td></tr>
<tr><td colspan="2">【小学校　国語・算数　各４５分】</td></tr>
<tr><td rowspan="3">生活習慣や学習環境等に関する質問紙調査</td><td>児童生徒に対する調査</td><td rowspan="3">学校に対する調査</td></tr>
<tr><td>学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査
（例）将来の夢や目標の有無、起床・就寝時間、ICTの利用状況、読書時間，家庭学習の状況など</td></tr>
<tr><td>【２０分程度】</td><td>指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査
（例）学力向上に向けた取組，指導方法の工夫，教育の情報化，教員研修，家庭・地域との連携の状況など</td></tr>
</table>

桶川市の調査結果の概況

小学校

　　は全国平均正答率を上回ったもの

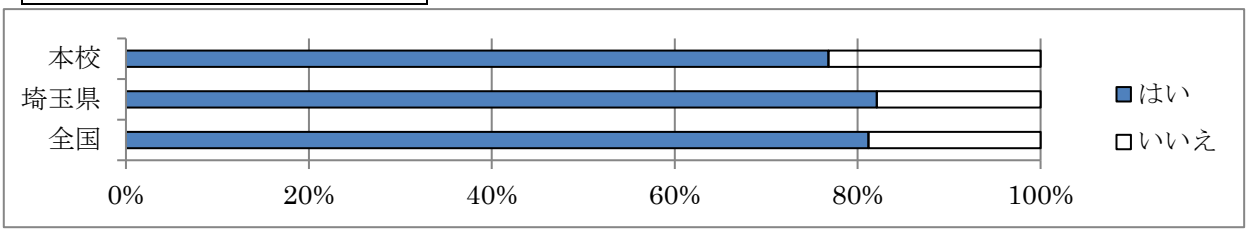
国語				
学習指導要領の領域等	設問数	本校平均正答率(%)	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)
話すこと・聞くこと	3	70.9	71.6	72.3
書くこと	3	46.4	52.9	54.5
読むこと	3	77.9	81.1	81.7
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	5	54.7	57.1	53.5

算数				
学習指導要領の領域	設問数	本校平均正答率(%)	県平均正答率(%)	全国平均正答率(%)
数と計算	7	55.0	62.5	63.2
量と測定	3	42.4	51.7	52.9
図形	2	66.4	75.4	76.7
数量関係	7	63.2	68.3	68.3

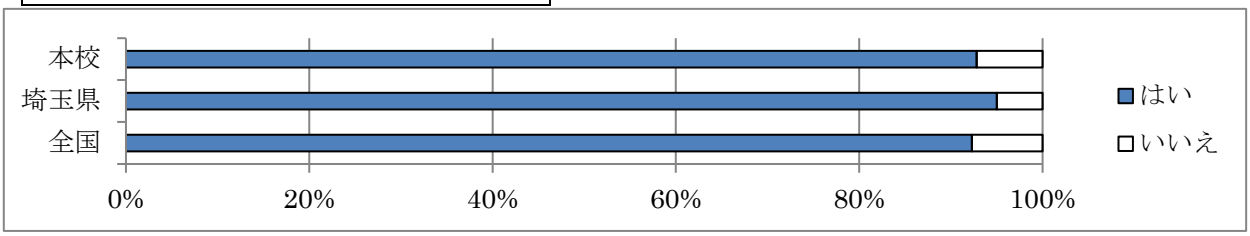
＜児童への質問紙調査＞（主なものをグラフで表示）

はい…そう思う、どちらかといえばそう思う
いいえ…そう思わない、どちらかといえばそう思わない

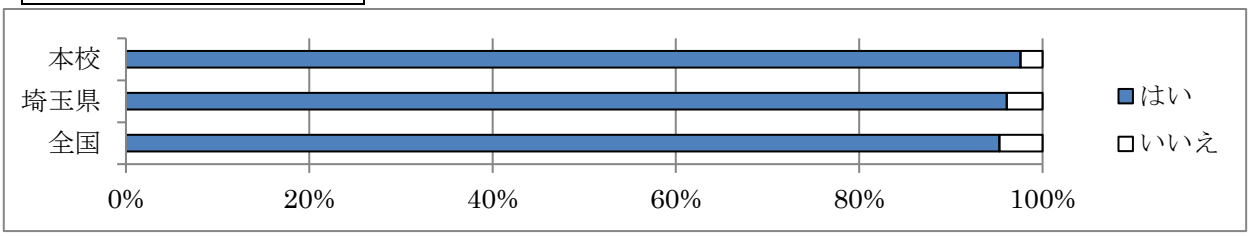
自分には良いところがある。



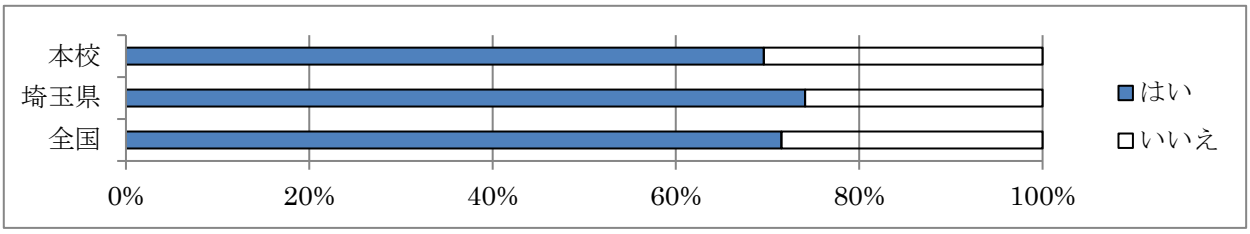
学校のきまり（規則）を守っている。



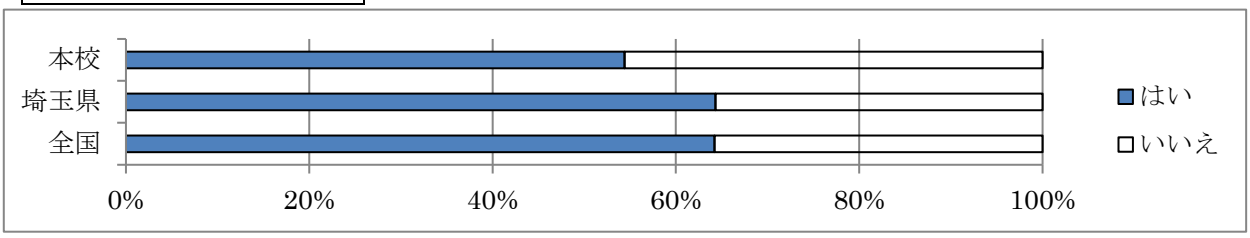
朝食を毎日食べている。



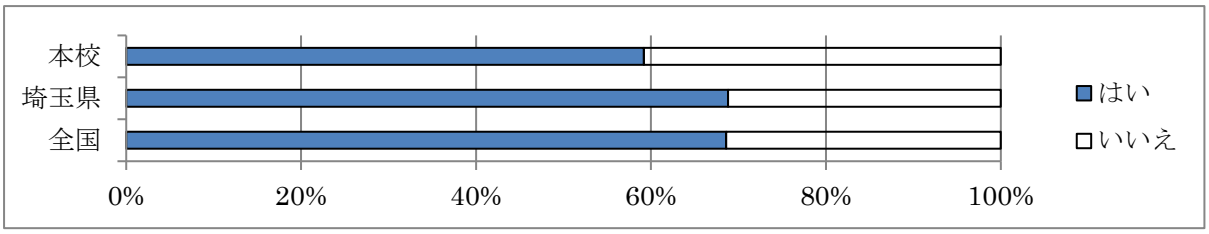
家で、自分で計画を立てて勉強している。



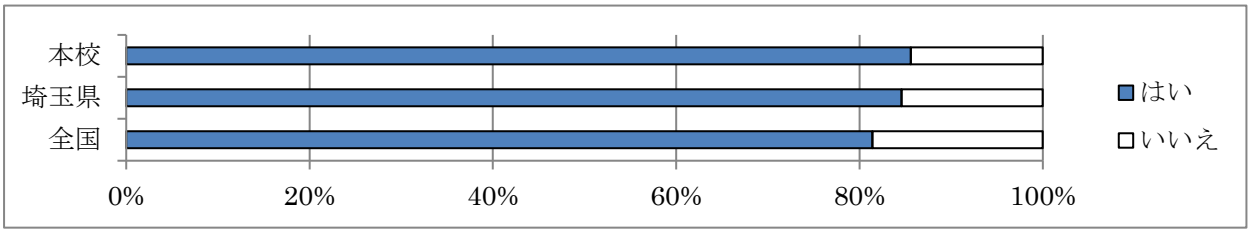
国語の勉強は好きだ。



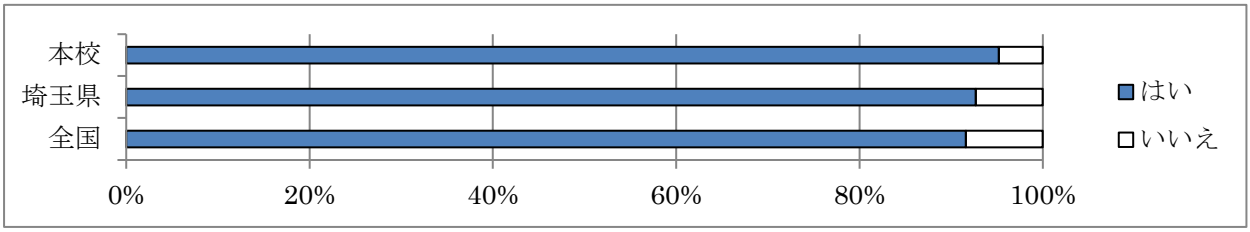
算数の勉強は好きだ。



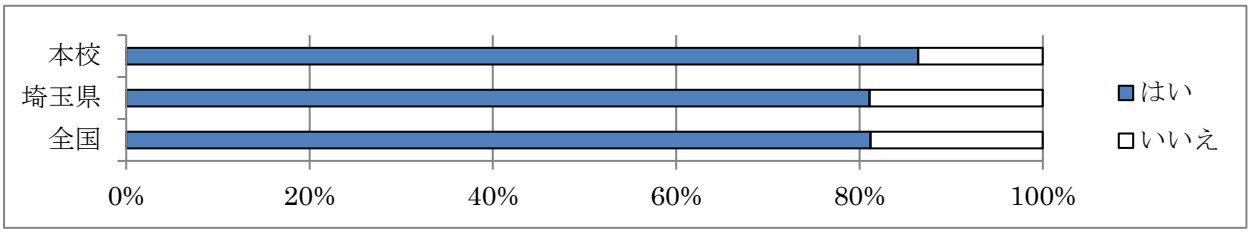
毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



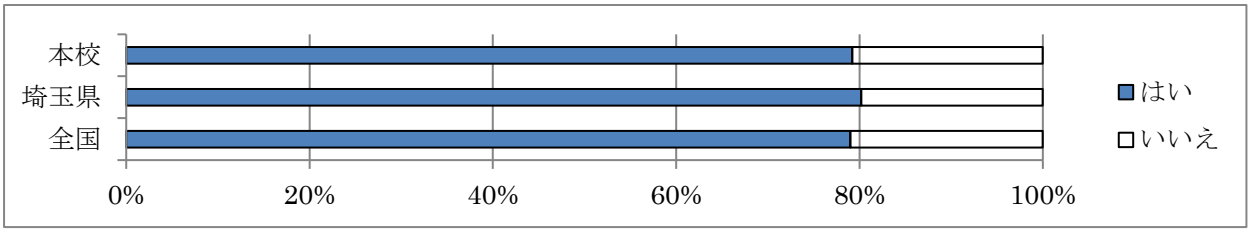
毎日、同じくらいの時刻に起きていますか



家の人（兄弟姉妹を除く）と学校での出来事について話をしますか



難しいことでも、失敗を恐れないで挑戦していますか



本校の調査結果の分析・考察

＜国　語＞

【領域別】

「話すこと・聞くこと」話し手の意図を捉えながら聞き、自分の理解を確認するために、適宜質問することができています。

「書くこと」目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書くことが苦手です。

「読むこと」目的に応じて、文章全体の内容を的確に読み取ることができています。

「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」

文と文の意味のつながりを考えながら、接続詞を使って内容を分けて書くことが苦手です。

【問題　２　設問番号二】

問題　目的に応じて、本や文章全体を概観して効果的に読む方法を選択する問題。

2　宮原さんの学級では、身近な食べ物について疑問に思ったことを調べ、友達と紹介し合うことにしました。次は、宮原さんの【ノートの一部】と宮原さんが選んだ【資料】です。これらをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【ノートの一部】

食べ物の保存について

調べようと思ったきっかけ

春休みに、祖母から梅干しをもらったが、それが十年前に作られたものだと知りおどろいた。十年もたつのになぜ食べられるのかと聞くと、塩づけにしたり干したりしているからだということだった。昔の人はくふうして食べ物を保存してきたのだと、祖母は教えてくれた。

疑問に思ったこと

① なぜ食べ物を塩づけにしたり干したりすると保存できるのか。

② なぜ昔の人は、食べ物を保存する方法を考えなければならなかったのか。

調べて分かったこと

① 食べ物を塩づけにしたり干したりすると保存できる理由は、［　ア　］

② 昔の人が食べ物を保存する方法を考えなければならなかった理由は、［　イ　］

宮原さん

【問題　３　設問番号一】

問題　話し手の意図を捉えながら聞き、話の展開に沿って、自分の理解を確認するための質問を選択する問題。

【インタビューの様子】

岸さん　大谷さんが達人として紹介されている、町の広報誌の記事を読みました。今日は、大谷さんの仕事への思いや考えなどをお聞きしたいと思います。よろしくお願いします。

大谷さん　こちらこそ、よろしくお願いします。

岸さん　では、早速ですが、広報誌で大谷さんは、「私にとって、畳はとてもみりょくてきなものです」とおっしゃっていましたよね。どのようなところにみりょくがあると思われますか。

大谷さん　私の店の畳について言えば、全て一点物だということです。私は、機械を使わずに、細部までくふうして一枚ずつ手作業で仕上げています。ですから、完成した畳は同じように見えても、それぞれに個性があるのです。そこが私にとっての一番のみりょくですかね。

岸さん　そうなのですね。それはつまり、［　ア　］

大谷さん　そうです。部屋の大きさに合わせたり、お客様の希望や要望に応えたりするのは、職人としての腕の見せどころですからね。

岸さん　職人としての腕をみがくために、どのようなことを親方から教わったのですか。

大谷さん　親方から直接教わったことはほとんどありません。

岸さん　では、どのようにして腕をみがいたのですか。

【資料】食べ物の保存について書かれた本のページ

食べ物を保存する

◆ **食べ物は生命の源**

生き物は、食べ物がなければ生きていくことができません。食べ物を安定して確保することは、生きる上で欠かせないことです。

例えば、リスは秋になるとドングリを土にうめ、食料をたくわえます。クマはたくさんの食べ物を食べ、体に栄養をたくわえて冬眠に入ります。動物たちは、このようにして生きぬいているのです。

わたしたち人間は、食べ物を保存する技術がなかったころは、いつでもおなかを満たすことができるというわけではありませんでした。季節や天候などにより、農作物や肉、魚などが手に入らないことがあったからです。また、運よく大量の食べ物が手に入ったとしても、そのままにしておくと、くさって食べられなくなってしまうこともありました。そのため、人々は昔から様々な方法で食べ物の保存を試みてきました。失敗をくり返しながらよりよい保存方法を獲得し、次の世代へつないできたのです。

◆ **保存のふしぎ**

食べ物がくさる主な原因は、食べ物をくさらせる細菌が増えることです。その細菌は食べ物の水分を利用して増えます。そのため、水分が少なくなれば細菌は増えにくくなり、食べ物はくさりにくくなります。

では、水分を少なくするにはどのようにしたらよいのでしょうか。例えば、塩や砂糖を使うという方法があります。塩や砂糖には水分を吸い出すはたらきがあるので、塩や砂糖を使ってつけることで水分を少なくすることができるのです。また、かんそうさせるという方法もあります。日光や風に当てて干すことで、水分を蒸発させることができます。

これらの方法を使った保存食には次のようなものがあります。

塩を使う	砂糖を使う	かんそうさせる
・山菜の塩づけ ・豚肉の塩づけ ・魚の塩づけ	・果物の砂糖づけ ・ジャム	・切り干し大根 ・かんぴょう ・こんぶ

【目次の一部】

第２章　梅干し

○ **梅干しはどこからきたのか** … 40ページ 1
・梅干しの起源

○ **はじめてでも簡単！おうちで梅干し** … 55ページ 2
・梅と塩、道具の選び方
・作り方の手順とポイント

○ **梅干しの活用術** … 67ページ 3
・いわしの梅煮
・わかめと梅干しのスープ

○ **梅干しの豆知識** … 77ページ 4
・故事とことわざ

二　宮原さんは、食べ物の保存について調べたあと、自分でも梅干しを作ろうと思い、必要な情報が書かれていそうな本を選びました。次は、**【知りたいこと】**と本の**【目次の一部】**です。宮原さんが読むページとして最も適切なものを、あとの 1 から 4 までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

【知りたいこと】

梅干しを作るには、塩はどのくらい、必要で、いつ入れたらいいのかな。

宮原さん

正答　2

〈分析〉

全国平均と同じく、正答率が８割となった問題です。この問題では、宮原さんの【知りたいこと】の内容を捉え、【目次の一部】を活用し、必要な情報を得るために適切なページを選ぶことが求められています。学校では、様々な授業の中で、自分の課題ごとに調べたり、考えたりする時間が設けられています。調べる活動の際には、たくさんの情報の中から、児童が自分の課題に会った情報を、より的確に選択できるよう、目次の利用の仕方や索引

大谷さん　畳を作る技術やお客様への接し方は、とにかく親方の仕事ぶりをよく見ていました。

岸さん　大谷さんは、親方の姿をよく見て技術や接し方を身につけたのですね。

大谷さん　いやいや、見るだけでは身につけられません。「**習うより慣れよ**」ということわざにもあるとおり、実際に自分でやってみることを何度もくり返すのです。私はとても不器用なので大変さはありましたが、何とか親方のようになりたいと思いながら、修業をしていました。

岸さん　そのような思いをもっていたのですね。大谷さんは、他に、どのような思いや考えをもって、五十年間仕事を続けてきたのですか。

大谷さん　思いや考えですか。なかなか難しい質問ですね。

岸さん　すみません。**では、五十年間仕事を続けてきた中で大切にしてきたことや心構えはありますか。**

大谷さん　そうですね。五十年も職人をしていますが、いまだに完ぺきだと思える仕上がりはありません。だからこそ、自分が一人前になったと思わず、次こそはもっとよいものを作ろうと挑戦し続けるのです。これが、ずっと大切にしてきたことですかね。

岸さん　お話を聞いて、大谷さんの仕事への思いや考えが分かりました。特に、

イ

またぜひお話を聞かせてください。今日は本当にありがとうございました。

一　**【インタビューの様子】**の ア で、岸さんは、自分の理解が正しいかどうかを確認しようと思い、質問をしています。その質問として最も適切なものを、次の**1**から**4**までの中から一つ選んで、その番号を書きましょう。

1　十八歳から五十年間も、畳職人という仕事を続けることができたということでしょうか。

2　機械を使って一度にたくさん作るので、より多くの人が使うことができるということでしょうか。

3　最近作られた畳の中で、特にくふうして仕上げたものにはどのようなものがあるのでしょうか。

4　細部までていねいに手作業で作るので、一枚も同じものはないということでしょうか。

正答　4

〈分析〉

全国平均を２．７ポイント上回った問題です。この問題では、【インタビューの様子】のアの直前の大谷さんの発言から、「全て一点物だ」、

の仕方、インターネットを利用した検索の仕方を指導しています。今後も、調べ学習の際には、効率よく自分の課題にあった情報を選択できるようにしていきます。

【問題　１　設問番号一】

問題　図表やグラフなどを用いた目的を捉える問題。

一　高橋さんは、**【報告する文章】**で**〈資料２〉**と**〈資料３〉**を、それぞれどのような目的で用いていますか。その説明として最も適切なものを、次の**１**から**５**までの中からそれぞれ一つ選んで、その番号を書きましょう。

１　現在と過去の様子を並べて示し、二つのちがいを伝えるため。
２　内容ごとに分類して示し、大まかな特ちょうを伝えるため。
３　年度ごとの数値をグラフで示し、移り変わりを伝えるため。
４　記号や印などを使って示し、実際の位置を伝えるため。
５　説明したい場所やものを写真で示し、実際の様子を伝えるため。

〈資料２〉……□　**〈資料３〉**……□

正答　資料２に２
　　資料３に４と解答しているもの。

〈分析〉

全国平均を１２ポイント下回った問題です。この問題では、資料２の表を用いた目的と、資料３の地図を用いた目的を捉えることが求

「完成した畳は同じように見えても、それぞれに個性がある」ということが大谷さんにとっての畳の魅力であることを捉えることが求められています。授業では、教師や友達の話を聞いて学習することや、グループごとに話合いをしながら学習を進めることがあります。その際には、相手の話の内容を十分に聞き取り、理解するために、話し手の意図を捉えながら聞いたり、自分の意見と比べながら聞いたりすることを指導しています。日常生活の話を聞く場面でも、繰り返し指導していきます。

【問題　１　設問番号三】

問題　目的や意図に応じて、自分の考えの理由を明確にし、まとめて書く問題。

1

高橋さんの学級では、生活の中で気になったことを調べ、友達に報告することにしました。高橋さんは、公衆電話について調べています。次は、高橋さんが書いている**【報告する文章】**です。これをよく読んで、あとの問いに答えましょう。

【報告する文章】

公衆電話について

高橋　めぐみ

1　はじめに

先日外出したときに、家に電話をかけようと近くの店に行くと、あったはずの公衆電話がなくなっていて、こまってしまいました。また、よく行く公園の公衆電話も、いつの間にかなくなっていました。わたしは、公衆電話の数が減っているのではないかと思い、町の公衆電話の数を調べることにしました。それをまとめたものが**〈資料１〉**です。平成二十年度から二十九年度までの十年間で、約半分にまで減っていることが分かりました。

そこで、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまったのかどうか調べてみることにしました。

2　調査の内容と結果

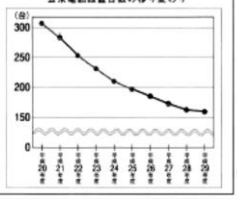
（1）公衆電話はどのようなときに必要なのか

多くの人がけいたい電話を持つ中で、公衆電話が必要とされているのかどうかを調べてみることにしました。

そこで、地いきの人三十人を調査のアたいしようとして、公衆電話は必要かどうかを聞いたところ、ほとんどの人が必要だと回答しました。その理由をまとめたものが**〈資料２〉**です。「けいたい電話をわすれたときに必要」「けいたい電話の電池が切れたときに必要」などの回答がありました。

このことから、公衆電話は、主にけいたい電話を使うことができないときに必要とされているということが分かりました。

〈資料１〉
公衆電話設置台数の移り変わり



〈資料２〉
公衆電話が必要な理由のまとめ（複数回答）

けいたい電話をわすれたときに必要	22人
けいたい電話の電池が切れたときに必要	12人
けいたい電話の使用が禁止されている場所にいるときに必要	5人
けいたい電話の電波がとどかない場所にいるときに必要	4人
けいたい電話や家の電話がつながりにくいときに必要	3人
その他	5人

（2）公衆電話にはどのような使い方や特ちょうがあるのか

公衆電話について書かれた資料を調べてみると、公衆電話には、次のような使い方や特ちょうがありました。

・警察署（110番）や消防署（119番）には、硬貨やテレホンカードがなくても通報することができる。
・停電のときでも、硬貨を使って通話をすることができる。
・電話が混み合っているときでも、優先的につながりやすい。

このように、公衆電話は、きん急のときにも使うことができるということが分かりました。

（3）公衆電話はどのような場所にあるのか

公衆電話を必要なときに使うことができるようにするためには、どのような場所に設置されているのかを前もって知っておくことが大切だと思ったので、わたしは、公衆電話の設置場所を確かめてみることにしました。実際に町を歩いてまとめたものが**〈資料３〉**です。

この資料から、公衆電話は、主に病院や学校、駅などの多くの人が集まる場所にあるということが分かりました。

3　調査の結果をもとに考えたこと

調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまったわけではないと考えました。なぜなら、

また、公衆電話を使いたいときには、多くの人が集まる場所へ行けば見つけやすいのではないかということも考えました。

今回の調査を通して知ったことを、学級の友達にイかきらず多くの友達に伝え、公衆電話についてウかんしんをもってもらいたいと思います。

〈資料３〉
公衆電話の設置場所を示した地図

められています。説明文では、筆者がより分かりやすく説明するために、図や表、写真、グラフ等を用いることがあります。授業の中では、その図表と文章を照らし合わせ、どのような効果をもたらしているかを考え、読み取るようにしています。今後の指導では、読み取りだけでなく、書く活動の際も、筆者の効果的な書き方を使い、より分かりやすく読み手に伝えるための工夫として、図表の扱い方を取り上げながら考えさせ、習慣付けるようにしていきます。

三　高橋さんは、「3　調査の結果をもとに考えたこと」の［　　］に「2　調査の内容と結果」の（1）と（2）で分かったことをまとめて書いています。［　　］に入る内容を、次の条件に合わせて書きましょう。

（条件）

○「2　調査の内容と結果」の（1）と（2）の両方から言葉や文を取り上げて書くこと。

○【報告する文章】にふさわしい表現で書くこと。

○書き出しの言葉に続けて、四十字以上、七十字以内にまとめて書くこと。なお、書き出しの言葉は字数にふくむ。

※左の原稿用紙は下書き用なので、使っても使わなくてもかまいません。解答は、解答用紙に書きましょう。
※◆の印から書きましょう。とちゅうで行を変えないで、続けて書きましょう。

調査の結果から、公衆電話は、わたしたちにとって必要がなくなってしまったわけではないと考えました。

なぜなら、◆

70字

40字

正答

①「2　調査の内容と結果」の（1）と（2）の両方から、分かったことについて言葉や文を取り上げて書いている。

②【報告する文章】にふさわしい表現で書いている。

③書き出しの言葉に続けて、40 字以上、70 字以内で書いている。

①　②　③の条件を満たしているもの。

〈分析〉

全国平均より５．６ポイント下回った問題です。この問題では、「２　調査の内容と結果」の「（１）公衆電話はどのようなときに必要なのか」と「（２）公衆電話にはどのような使い方や特徴があるのか」の両方から、分かったことについて考えをまとめ、「必要ではない」と考える理由として説明することが求められています。授業の中では、自分の考えを相手に伝わるように書くときには、事実と考えを区別することや、理由を明確にして書くことを指導しています。今後の授業では、調べ学習等でも、分かったことの事実の中からふさわしいものを取り上げ、自分の考えと関係を十分に捉えて書くことを大切にし、根拠を明確にして書くように指導していきます。

＜算　数＞

【領域別】

「数と計算」計算の順序などの計算のきまりについての理解が十分ではありません。

「量と測定」グラフの読み取りはできている児童が多いです。

「図形」図形の特徴や形をとらえることに課題があります。

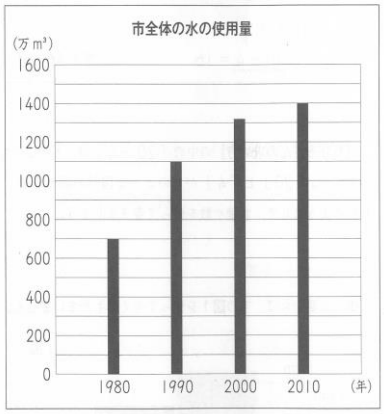
「数量関係」グラフからデータの変化をとらえることはできていますが、単位量当たりの計算は苦手な児童が多いです。

【問題2（２）】

問題

かいとさんたちは，水を大切に使っているのかどうかを知りたいと思い，まず，自分たちの住んでいる市では，水をどのくらい使っているのかを調べています。かいとさんは，**グラフ1**を見つけました。

グラフ1



(2) **グラフ1**の，**2010年**の市全体の水の使用量は，**1980年**の市全体の水の使用量の約何倍ですか。
答えを書きましょう。

正答　２倍

全国平均とほぼ同じ正答率で、無回答も少なかったです。グラフから何倍かを求めることが容易にでき、グラフの読み取りの理解ができている児童が多かったです。

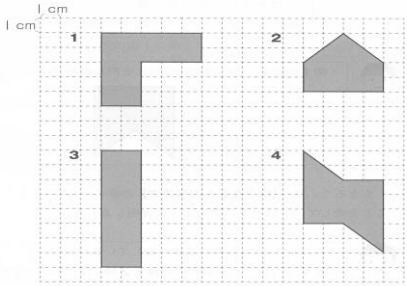
【問題2（３）】

【問題1（２）】

問題

(2) ちひろさんは，次のように，２つの合同な台形をつくりました。

上の２つの合同な台形を，ずらしたり，回したり，裏返したりして，同じ長さの辺どうしを合わせ，いろいろな形をつくります。
どのような形をつくることができますか。
下の **1** から **4** までの中から**すべて**選んで，その番号を書きましょう。



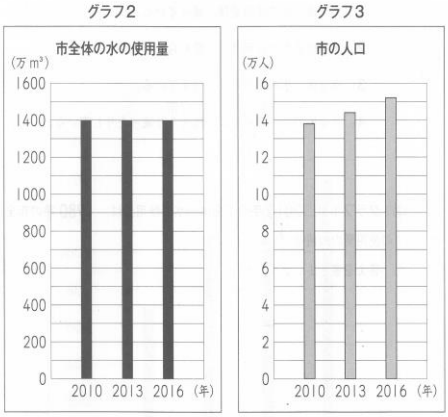
正答　１，３，４

全国平均を16.3%下回った問題です。
２つの合同な台形を、ずらしたり、回したりしてできる図形を選ぶのが課題ですが、正解の３つの図形のうち２つだけを選んだり、不正解の４を選んでしまっている児童が多く見られました。補助線を入れる、などにより視覚的に理解させる支援が必要です。

【問題4（３）】

問題

(3) 次に，かいとさんたちは，市全体の水の使用量には，人口が関係しているのではないかと思い，**グラフ2**と**グラフ3**を見つけ，2つのグラフをもとに考えています。



あやのさんが言うように，**グラフ2**と**グラフ3**を見ることで，2010年から2016年までの1人あたりの水の使用量についてわかることがあります。

2010年から2016年までの，3年ごとの1人あたりの水の使用量について，どのようなことがわかりますか。

下の **1** から **4** までの中から1つ選んで，その番号を書きましょう。

また，その番号を選んだわけを，**グラフ2**と**グラフ3**からわかることをもとに，言葉や数を使って書きましょう。

1 1人あたりの水の使用量は，減っている。

2 1人あたりの水の使用量は，変わらない。

3 1人あたりの水の使用量は，増えている。

4 1人あたりの水の使用量は，増えたり減ったりしている。

正答　1〈わけ〉1人当たりの水の使用量は、市全体の水の使用量÷市の人口で求められます。市全体の水の使用量は変わっていませんが、市の人口は増えているので、一人当たりの水の使用量は減っています。

全国平均とほぼ同じ正答率の問題です。
市全体の水の使用量のグラフと市の人口のグラフの違いや相関関係が分かり、1人当たりの水の使用量の違いに目を向けられる児童が多かったです。引き続きグラフを書いたり、読んだりする活動を大切にして、理解を深められるようにします。

問題

(3) はるとさんたちは，限定商品を買いたいと思っています。次の予定があるので，午後3時までにはレジに着きたいと考えています。

列に並ぶと，レジまでは14ポール分ありました。ポールとポールの間の長さはどこも同じです。

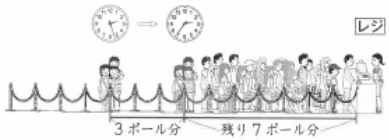
はるとさんたちが並んでから，4ポール分進むのに8分間かかり，残り10ポール分になりました。午後3時までは，残り33分間です。そこで，33分間以内にレジに着くことができるかどうかを考えてみました。

はると

4ポール分進むのに8分間かかったことから，残り10ポール分も同じ進みぐあいで進むとして考えます。
8÷4＝2で，1ポール分には2分間かかります。
残り10ポール分なので，2×10＝20で，20分間かかります。
だから，33分間以内にレジに着くことができます。

ところが，レジにいる店員さんが減ってしまいました。それからは，3ポール分進むのに9分間かかり，残り7ポール分になりました。午後3時までは，残り24分間です。

そこで，はるとさんたちは，24分間以内にレジに着くことができるかどうかを，もう一度考えてみました。



あかり

3ポール分進むのに9分間かかったことから，残り7ポール分も同じ進みぐあいで進むとして考えます。

3ポール分進むのに9分間かかる進みぐあいで進むとすると，残り7ポール分進むのにかかる時間は何分間ですか。

求め方を言葉や式を使って書きましょう。また，答えも書きましょう。

さらに，24分間以内にレジに着くことができるかどうかを，下の **1** と **2** から選んで，その番号を書きましょう。

1 着くことができる。

2 着くことができない。

正答　9÷3＝3　1ポール分には3分間かかる。残り7ポールなので、3×7＝21で21分かかります。　答え　21分、1

全国平均を17ポイント下回った問題です。1ポール当たりの時間は求められても、その7ポール分の時間の計算ができない児童が多かったです。また、無回答児童の割合も高い傾向が見られました。「単位量」の学習において、単位量の意味をしっかり理解させるとともに日常生活に生かす取り組みを大切にしていきます。

＜質問紙調査から＞

【質問２８】

質問
授業でもっとコンピュータなどのＩＣＴを活用したいと思いますか。
回答結果
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童が９０．４％いた。全国平均を３．９ポイント上回った。

※授業でＩＣＴを活用し、わかりやすく、効率よく学習を進めていくことは、非常に効果的です。授業でＩＣＴを活用したいという児童の思いを受け止め、授業における様々な場面で有効活用ができるように、教職員の研修等も行っていきます。

【質問３９】

質問
国語の授業の内容はよく分かりますか。

回答結果
「当てはまらない」「どちらかといえば、当てはまらない」と答えた児童が２１．６％いた。全国平均を６．６ポイント上回っている。

※国語は、全ての学習の基本となる大切な教科です。児童の授業の理解度を高めるために、児童が日頃から文章等に触れられるように読書活動を推進するだけでなく、わかりやすい授業を展開できるよう学校全体で授業研究等の取り組みを進めていきます。

【質問４０】

質問
国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか。
回答結果
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童が９３．６％いた。全国平均を２．４ポイント上回った。

※国語の授業で学習したことが、将来、社会に出たときに役に立つと考えている児童が９３．６％いるということは、国語の授業の大切さや重要性を理解できているということだと思います。今後も、国語を小学校段階から中学校・高校とつながりのあるものとし、将来役に立つ学びになるよう創意工夫をした指導を進めていきます。

【質問５３】

質問
算数の授業で問題を解くとき、もっと簡単に解く方法がないか考えますか。
回答結果
「当てはまる」「どちらかといえば、当てはまる」と答えた児童が８５．６％いた。全国平均を３．５ポイント上回った。

※算数の問題を解くときに、多様な解き方を考えようとする児童が、全国平均を大きく上回って多いことがわかります。児童の算数の学習に対する意欲が高く、既習事項を活かして学習活動に臨むことができていると考えられます。今後は、問題に対して多様な解き方を考えさせるだけでなく、理由を付けて発表できる力も身に付けられるよう継続的に指導していきます。

＜埼玉県学力・学習状況調査の概要＞

※「平成３１年度埼玉県学力・学習状況調査（調査の概要）」（埼玉県教育委員会より抜粋）

１　調査の目的

本県の児童生徒の学力や学習に関する事項等を把握することで、教育施策や指導の工夫改善を図り、児童生徒一人一人の学力を確実に伸ばす教育を推進する。

参考：【埼玉県学力・学習状況調査】埼玉県教育委員会ホームページ（新規ウィンドウを開きます）
https://www.pref.saitama.lg.jp/f2214/gakutyou/20150605.html

２　調査対象

小学校第４・５・６学年　原則として全児童

３　調査実施日

平成３１年４月１１日（木）

４　調査の内容

（１）教科に関する調査

小学校第４学年から第６学年まで　　国語、算数

※　学習指導要領に示された内容のうち調査する各学年の前の学年までの内容

（２）質問紙調査

学習意欲、学習方法及び生活習慣等に関する事項

桶川市の調査結果の概況

＜小学校＞　　は県平均正答率を上回ったもの

国語	第４学年			第５学年			第６学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
話すこと・聞くこと・書くこと	5	36.6	38.0	4	29.7	37.0	4	38.9	48.4
読むこと	4	64.0	61.5	9	47.3	49.8	9	63.2	65.8
伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項	17	64.1	60.2	17	52.1	57.2	17	60.2	63.5

算数	第４学年			第５学年			第６学年		
教科の領域等	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率	設問数	本校平均正答率	県の平均正答率
数と計算	12	72.6	71.7	12	71.6	74.0	11	64.6	67.7
量と測定	6	68.3	62.2	7	64.0	63.4	7	48.8	55.3
図形	6	68.9	68.4	6	62.9	61.9	7	53.1	56.9
数量関係	6	77.4	77.2	7	61.4	67.7	7	56.0	62.0

＜児童への質問紙調査＞（主な結果：「規律ある態度」に関する項目の結果）

※　達成率：「できる」（「よくできる」「だいたいできる」の合計）と回答した割合

上段：本校の達成率、下段：県の達成率、　　は８０％以上　　（%）

内容	項目		第４学年	第５学年	第６学年
○けじめある生活ができる	1　時刻を守る				
		①　登校時刻	**90.8**	**98.2**	**91.9**
			91.7	94.0	94.6
		②　授業の開始時刻	**94.3**	**94.6**	**92.7**
			92.9	94.4	95.2
	2　身の回りの整理整頓をする				
		③　靴そろえ	**84.4**	**87.4**	**89.5**
			84.8	86.1	88.8
		④　整理整頓	**84.4**	**80.2**	**83.1**
			83.7	83.3	84.2
○礼儀正しく人と接することができる	3　進んであいさつや返事をする				
		⑤　あいさつ	**81.6**	**82.0**	**78.2**
			81.3	80.3	80.9
		⑥　返事	**90.1**	**91.0**	**84.7**
			90.7	88.6	88.4
	4　ていねいな言葉づかいを身に付ける				
		⑦　ていねいな言葉づかい	**89.4**	**86.5**	**87.9**
			87.4	86.5	88.0
		⑧　やさしい言葉づかい	**86.5**	**80.2**	**88.7**
			85.0	83.9	84.0
○約束やきまりを守ることができる	5　学習のきまりを守る				
		⑨　学習準備	**78.7**	**87.4**	**84.7**
			81.0	85.2	86.0
		⑩　話を聞き発表する	**83.0**	**87.4**	**79.8**
			81.3	75.4	74.5
	6　生活のきまりを守る				
		⑪　集団の場での態度	**79.4**	**85.6**	**80.6**
			85.2	85.3	85.8
		⑫　掃除・美化活動	**92.2**	**90.1**	**92.7**
			91.1	89.5	87.7

本校の学力向上の取組

☆…成果を上げたと考えられる取組
■…課題を解決するための取組

授業における取組

☆日々の指導（成果を上げたと考えられる取組）

国　・辞典を活用し、熟語の意味調べを繰り返し行い、理解を深める。
　　・授業のはじめに、漢字小テストを行い、定着を図る。
　　・作文指導の際には、構成メモを毎回書かせ、見通しを持って書かせる。

算　・学校全体でノートの使い方を統一し、同一の流れで授業を行う。
　　・授業で、具体物を多く使うようにし、学習の理解を深める。

■日々の指導（課題を解決するための取組）

国　・説明文や物語文では、全体から内容の概要をつかむことができるように、部分ごとの読みではなく、児童がじっくり読み取る時間を確保する。
　　・自分の考えを発表する際は、理由を付けて発表するように指導する。

算　・算数だけでなく、理科や社会などの他教科との関連を図って指導を進める。

☆基礎・基本の定着（成果を上げたと考えられる取組）

国　・漢字を繰り返し練習（小テスト・５０問テスト）したことが定着につながった。
　　・辞典を活用したことが、基礎・基本の定着につながった。

算　・補助計算などの仕方を学年の教員間で話し合って統一したことが、正しく計算できることにつながった。

■基礎・基本の定着（課題を解決するための取組）

国　・授業以外でも、習った漢字を使うなどして、更なる定着を目指す。
　　・家庭学習を充実させ、様々な読み物に触れられるような声掛けを行う。

算　・ドリルやプリントなどを活用して、繰り返し計算練習を行い、定着を目指す。

☆読み取る力の向上（成果を上げたと考えられる取組）

国　・接続詞に気を付けて読むことで、説明文では筆者の主張が読み取ることができることをおさえた。
　　・物語文では、話の流れから作者の感じていることや伝えたいことをつかませる。
　　・家庭学習を充実させたことで、読書の機会が増えた。

算　・文章題では、問題を音読し、「求めること」「分かっていること」「答えの単位」に印を付けることを習慣化した。

■読み取る力の向上（課題を解決するための取組）

国　・指示語に注目させるときは、一つ前の文のどこをさしているのか、考えさせる。
　　・家庭学習や宿題等で、読書の時間を設定し、さらに本に触れる機会を増やす。

算　・問題場面を正しく理解するために、身近な日常生活と関連を図るようにする。

授業以外の取組

☆家庭・地域との連携強化・家庭学習（成果を上げたと考えられる取組）

国　・児童が書いた作文や俳句等を、学級通信に載せ、どのような指導をしているか伝えていく。

・家庭学習パワーアップウィークを行ったことで、漢字や熟語の理解を深めることができた。

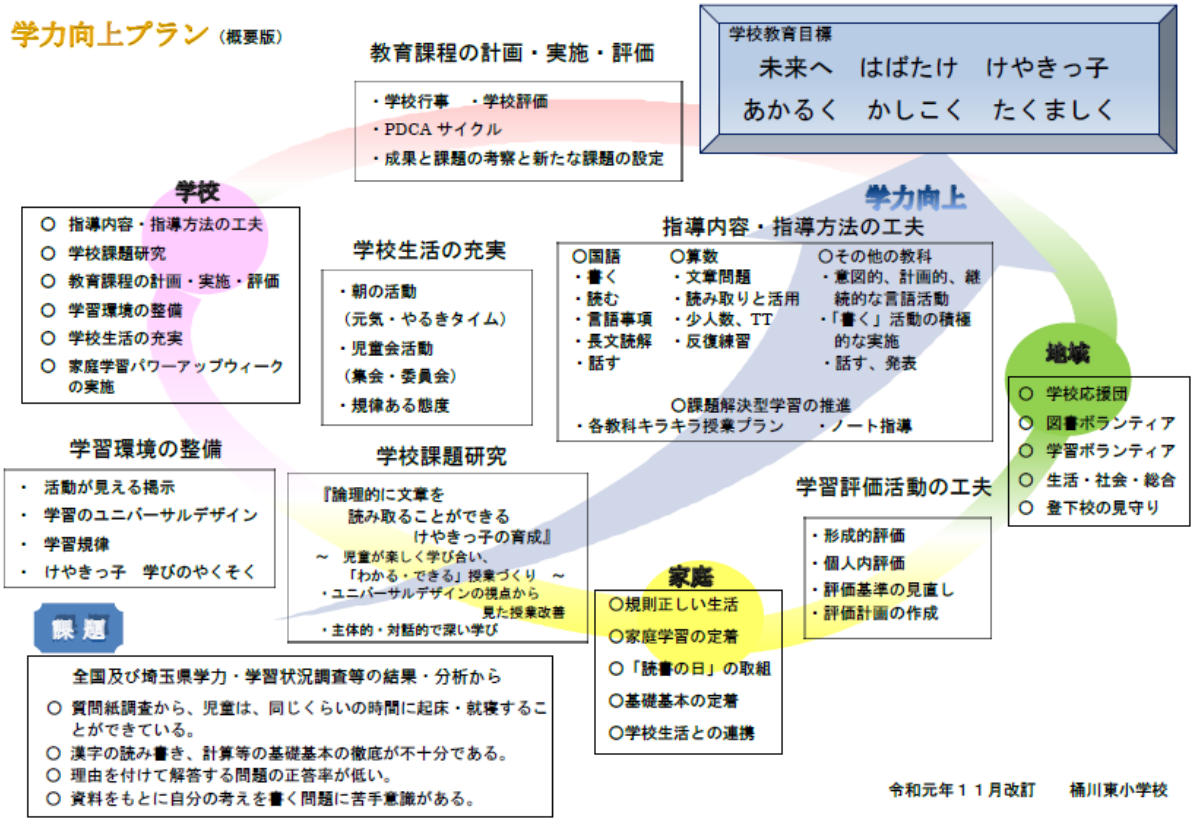
算　・学年だより・学級だより等で現在学習している内容を家庭に伝え、児童だけでなく、家庭にも学習の意識を持ってもらう。

■家庭・地域との連携強化・家庭学習（課題を解決するための取組）

国　・文章を読むことが苦手な児童が多いので、読書の習慣化を目指す。

算　・自主学習ノートを提出させ、個々の取組状況をチェックする。

↓

・家庭によっては、自主学習で何をやらせればいいのかが分からず、やらせられないという意見もあった。学校から、内容の例示や目安の時間の伝達を行っていく必要がある。

本校の学力向上プラン